

平成21年度事業計画書

自：平成21年4月 1日

至：平成22年3月31日

I. 基本方針

世界的に金融状況が不安定となる中、今年度は日本の経済活動が全般的に低調となることが想定される。それを十二分に踏まえつつも、引き続き魅力あるメニューを創出・提供することで、安定財源の主体をグライダー愛好者対象事業に置く。

さらに、ここ数年増加傾向にある体験観光事業への新たな取り組みを通じて、公益法人として目指すべき一般の人々への航空思想の啓発普及と、滝川のまちが期待するグライダーの果たすべき役割を全うするよう尽力する。

また、老朽化施設の修繕、航空機材の改修・更新など、時期的に必要となる比較的大規模な事業についても積極的に対応することにより、将来的な団体の経営基盤を整備する。

II. 内部体制

- (1) 運航スタッフ(含む臨時)として国内外の新たなソースを模索するとともに、会員の積極的な育成を図る。
- (2) 地上支援のボランティア・スタッフの獲得に向けて、広くリサーチする。
- (3) 新公益法人移行に向けて、本格的な準備作業を進める(平成22年度申請)。

III. 実施事業

1. スカイスポーツの啓発普及に関する事業

事業の主対象を青少年とし、学校教育との連携を図る。

(1) 市内・外の学校を対象とした体験学習の受入

市内 グライダー授業未実施校(小中学校)への啓発を強化して、参加校の増を図る 時期：6月及び10月

市外 体験学習・施設見学の実施 時期：随時

(2) こどもの日特別企画「こどもたちに大空のプレゼント」の開催

道内のこどもたちを対象に、体験搭乗や紙飛行機教室を実施する。

昨年の結果を踏まえ、来場者にゆとりを持ってもらえるような対応を考慮する。

開催日：5月5日(月・祝)

対象：市内外の小学生

予定人数：55名

(3) ジュニアグライダークラブの活動

操縦練習に力点をおき、クラブメンバーの拡充を図る。

(4) 青少年他団体を対象としたスカイスports体験学習会の支援
日本宇宙少年団札幌分団及び新たなソースを開拓する。

(5) 古典機活用事業

全国の古典機マニアと連携して、国内唯一の古典機専用の修理・展示・飛行を総合的に行える施設を整備するとともに、世界の古典機クラブとの連携を模索する。

(6) スカイパークの施設管理・運営

「たきかわスカイパーク」の指定管理者として、施設運営及び事業を展開する。

2. スカイスportsによる観光資源及び産業の開発（地域振興事業）

滝川市及びたきかわ観光協会と連携して、「空」をテーマとした体験型観光事業を推進するとともに、地域振興に寄与する事業の展開を積極的に図る。

(1) スカイスportsイベント「サマースカイフェスタ 2009」の開催

開催日：7月26日（日）

共催：滝川市

動員目標数：4,000人

(2) 観光客等の受入

体験観光飛行については、昨年から行っているインターネットによる予約システムをさらに活用するとともに、滝川市、(社)たきかわ観光協会及び中空知エリアの体験観光施設等の体験観光プログラムと連携した事業を積極的に展開する。また、圏内宿泊施設と連携したプログラムを提案し、販路を開拓する。

実施期間：シーズン中

(3) グライダー等による体験飛行会の実施

① 滝川市民対象

実施期間：7月22日（水）～7月26日（日）

予定人数：500名

② 一般市民対象

実施期間：4月中旬～11月中旬の間、随時

予定人員：1,200名程度

③ HOSPA 主催グライダー体験飛行会の支援

実施予定日：6月下旬の1日

予定人員：20名程度

(4) 「そらぷちキッズキャンプ」の支援

「そらぷちキッズキャンプ」が実施するサマーキャンプのスカイスports体験プログラムやツアープログラムを担当する。

開催日：8月中旬（予定）

(5) イベント支援

道内各地で行われる航空祭に積極的に参加し、「滝川のグライダー」の周知を図る。

① 千歳航空祭

開催日：8月2日（日）

場 所：航空自衛隊千歳駐屯地

主 催：航空自衛隊

支援内容：地上展示

② 2009 北海道スカイスポーツフェア in 当麻

開催日：7月26日（日）

場 所：当麻スカイパーク（当麻町）

主 催：（社）北海道スカイスポーツ協会

当麻町スカイスポーツフェア実行委員会（仮称）

支援内容：飛行展示及び地上展示

3. スカイスポーツ航空機の操縦技術・整備技術の向上と指導者の養成

初心者から指導者までの広範にわたる愛好者に対して、技量や要望に応じた各種の魅力あるメニューを実施して、飛行技術の向上を図る。また、スカイスポーツ機材・施設の整備を図る。

(1) 各種操縦に関する指導

① グライダースクール

シーズン中の平日に随時実施する

② サマートレーニングコースを8回実施する

第1回：6月29日～7月 4日 第5回： 8月24日～ 8月29日

第2回：7月 6日～7月11日 第6回： 9月14日～ 9月19日

第3回：8月 3日～8月 8日 第7回： 9月28日～10月 3日

第4回：8月17日～8月22日 第8回：10月 5日～10月10日

③ グライダークラブ

- ・主として、シーズン中の土・日・祝祭日に運航
- ・クロスカントリーの常態化に取り組む
- ・ミニコンペを実施する

④ クロスカントリー・キャンプ

6月、9月に強化週間を定め、積極的な指導を行う

⑤ グライダーキャンプの受入

大学生及び社会人の合宿誘致を図る。

1 本州方面の大学・社会人 7～8月頃

2 北海道大学及びOB会 5月及び10月頃

(2) 各種受験に関する指導

① 学科試験及び実地試験対策講習会の開催

対象資格：自家用操縦士（滑）上級・動力

受験予定者数：上級8名 動力3名

実地試験予定時期：7月及び10月

② 日本滑空記章、国際滑空記章関する指導及び試験の実施

(3) 各種講習会の実施（講師派遣）

- ① 認定安全講習会：自家用操縦士対象 4月11日（札幌）
- ② フライトセミナー：愛好者対象 5月～10月（必要に応じて、随時）
- ③ スカイスポーツ教室：一般対象 （社）北海道スカイスポーツ協会と連携

(4) 国際交流事業の推進

① 教官の派遣

冬季間、南半球を訪れる日本人に対し、ニーズに合致した教育支援を現地グライディングセンターと協同して実施するとともに、選手権への参加を通して滝川における国際選手権開催の可能性を探る。

期 間：平成21年12月～平成22年2月、各2～4週間

派遣先：オーストラリア国及びニュージーランド国

対象者：教官3名

② 曳航パイロットの招聘

各種飛行事業を円滑に行うために、曳航パイロットを招聘する。

期 間：8月上旬～9月中旬、6週間

招聘先：オーストラリア国

(5) 道内外の滑空団体への支援

北海道滑空協会への協力

講習会への講師派遣（指導者講習会、安全セミナー）

(6) たきかわスカイパークを利用する航空機に対しての整備支援

(7) スカイスポーツに関する機材及び施設の整備

- ① 航空科学研修センター塔屋の補修
- ② 航空動態博物館排煙窓の補修
- ③ 自動車用ガソリン対応エンジンへの改修（曳航機）
- ④ 高高度航空管制用自動応答装置（トランスポンダー）の装備（グライダー）
- ⑤ 移動指揮所（ソラリウム）の補修
- ⑥ グライダーの購入（計4機）

4. スカイスポーツに関する調査研究

スカイスポーツ関係情報の収集・発信を行うとともに、スカイスポーツ機材や制度の調査研究を行う。

(1) スカイスポーツ関連の情報収集

海外のグライダー界の状況を、国内にあっては各クラブ及びマニアの動静を重視し、情報の提供においては、あらゆる機会・媒体を捉えて、事業内容を中心として積極的に発信する。

- ① 最新の情報、一般の人にも認知されやすい内容に変えていく
- ② パンフレットの活用、観光業者との連携
アジア観光客をターゲットに、ニセコ・旭川エリアなどの観光先進地域との連携を図る

(2) スカイスポーツ機材・制度の研究

数年後の事業化を視野に、必要な調査を進める。

① 環境対応型動力グライダーの開発

日本の持つ最先端環境技術を駆使して、世界に先駆けてクリーンで低騒音の実用型航空機の開発を目指す。また、開発過程における新エネルギー駆動システムを自動車等の関連産業に売り込み、以って地域の活性化へとつなげる方策を研究する。

② 新たな収益事業の創出

スカイスポーツ以外の地域に根差した特色ある事業を調査・研究する。

5. 航空情報提供事業

たきかわスカイパークを利用する航空機に対して、フライトサービス局の運用や気象情報の提供等、必要な飛行支援を行う。

IV. 航空安全

スタッフ、会員及び飛行関係者の安全意識を刺激して、危険に対しての的確な見積りと確実な基本動作を実施させて、航空無事故を継続する。

無事故目標： 4, 016日